

2024年度 法学部人文科学・自然科学研究会紹介

— 法学部副専攻認定制度 —

目次

法学部「副専攻認定制度」について	2
------------------	---

人文科学研究会		
担当者	テーマ	
有光 道生	アメリカ文化論	4
大久保 教宏	世界の宗教と社会	5
大出 敦	日仏交流	6
大隼 エヴァ	アラブの声：メディアを通じて	7
大和田 俊之	アメリカ文化研究	8
奥田 暁代	アメリカの文化と社会	9
折井 善果	イベリア半島の文化と社会	10
片山 杜秀	日本の思想と文化	11
許 光俊	小説を読む、書く	12
熊代 敏行	ことばの分析－発見の喜びを求めて	13
熊野谷 葉子	ロシアの文化と社会	14
三瓶 慎一	現代ドイツ研究	15
常山 菜穂子	パフォーミング・アーツ研究 ―アメリカ文化を中心に―	16
永嶋 友	イギリス文化・社会とメディア	17
檜橋・アンリ, ナタリー	Société française	18
浜田 和範	世界の文学を読む	19
星野 真志	近現代イギリスの文化と社会	20
本谷 裕子	ラテンアメリカの文化と社会	21
安田 淳	中国及び東アジアの安全保障	22
横山 千晶	短編文学作品からイギリスの今を知る	23
林 秀光	人文・社会科学と自然科学の架け橋——環境史を学ぶ	24

自然科学研究会		
担当者	テーマ	
小野 裕剛	生命科学にかかわる諸問題	25
小林 宏充	流れの物理	26

法学部「副専攻認定制度」について

専門以外の関心事を追求し、副専攻として認定してもらおう

法学部の学生であるみなさんは、まずは法律学科目や政治学科目といった専門科目をしっかり学んでください。それが基本。

でも、専門さえ学べばそれでよいのでしょうか。実は皆さんには、以前から関心を持っている分野があるのではないのでしょうか。「ひそかに小説家志望である（できれば文学賞をもらいたい）」「生物を観察していて飽きない」「日本語は言語として面白すぎることに気付いた」「神社仏閣めぐりにはまっている」などなど…

大学には、専門以外の知的好奇心を満たすため、さまざまな授業があります。法学部ではそれらを「人文科学科目」「自然科学科目」などとして、一定単位数を履修することになっています。それらの授業を通して、ぜひ皆さんが興味を持っていることを学問的に掘り下げていってください。

興味のおもむくままに広く浅くランダムに科目を履修していくのは大いに結構。だけど、テーマを決めて計画的に学び、もう一つの専門といえるほど質量ともに充実した知識や研究を積み重ねることができたらもっと素晴らしいのではないか。というわけで始まったのが「副専攻認定制度」です。これは副専攻としての学士号を与えるものではありませんが、興味があるテーマに関連する科目を履修し、条件を満たした学生には「法学部副専攻認定証」が授与されます。数多くの科目の中から関心のある科目を自分で探し出し、知識や研究を自主的に組み立てていくことを奨励する制度です。知とは、あるいは知の喜びや楽しさとは、自由と自発性の上に咲くのです。

副専攻認定の条件：単位取得・卒業研究

副専攻認定のための条件は2つあります。

1. ひとつの領域やテーマについて、それに関連する科目を合計16単位以上取得していること。
この16単位以上の中には、3・4年次に履修する「人文科学研究会」「自然科学研究会」が含まれます。
2. 人文科学の場合は3・4年次の2年間、自然科学の場合は3年次か4年次の1年間、それぞれ「人文科学研究会」ないし「自然科学研究会」を履修すること（留学のためにこれらの科目に不足単位が出る場合は、留学先で履修した科目の単位によって補充することが認められる場合もあり）。さらに卒業論文レベルの成果をまとめ、提出すること。なお、研究会の担当者によっては履修条件を設ける場合があります。

研究会は少人数授業ですから、教員や学生同士で刺激を与えたり受けたりしながら、濃密な時間を過ごすことができます。これこそが大学の授業の醍醐味です。

もうちょっと詳しく！人文科学の場合

日吉設置の関連する科目を8単位以上と三田設置の「人文科学研究会Ⅰ～Ⅳ」を8単位、合計16単位以上取得し、卒業研究を提出することが必須条件です。

必須要件1：日吉設置の関連する科目（合計8単位以上）

必須要件2：三田設置の人文科学研究会Ⅰ～Ⅳ（各半期2単位、合計8単位以上）＋卒業研究
ロースクールを目指す早期卒業者は3年間で修了することもできますが、人文科学研究会の単位数が4単位不足します。日吉で人文科学特論を4単位分取得しておくか、3年次に人文科学研究会Ⅰ・Ⅱをもう1コマ履修して4単位取得し、不足分を補うことができます。あるいは人文科学特論と人文科学研究会の両方で4単位取得でも構いません。詳細は、各人文科学研究会担当者に問い合わせましょう。

副専攻（人文科学）認定の例①：アメリカの文化と社会

1・2年次 地域文化論 [アメリカ]Ⅰ～Ⅳ（各半期2単位、合計8単位）、他

3・4年次 人文科学研究会（アメリカ文化研究）（各半期2単位、合計8単位）、他＋卒業研究

⇒合計16単位以上

もうちょっと詳しく！ 自然科学の場合

日吉設置の実験科目（科目名に「実験を含む」と記述があるもの）6単位以上と、三田に設置された「自然科学研究会 III・IV」（IIIとIVは同一の担当者）4単位以上を取得し、卒業研究を提出することが必須条件です。さらに、前述の科目を含めて、関連する科目の取得合計単位数が16単位以上となる必要があります。

必須要件1： 日吉設置実験科目＝物理学 I・II、化学 I・II、生物学 I・II
（各半期3単位から合計6単位以上）

必須要件2： 三田設置自然科学研究会 III・IV（同一の担当者）
（各半期2単位、合計4単位以上）＋卒業研究

自然科学研究会 III・IVは3、4年生対象の科目であり、履修に際しては日吉設置の実験科目を含め、関連する科目8単位以上をすでに取得していることが原則です。また、自然科学研究会の履修は、原則として3年次か4年次の1年間です。ただし、担当者によっては2年間の履修を課していることもあり、その場合は特例として合計8単位が認められます。詳細については、各担当者の個別説明を参照して下さい。

副専攻（自然科学）認定の例：生物学

1・2年次 実験科目（必修）：生物学 I・II（各半期3単位、合計6単位）

自然科学科目：心理学 I・II（各半期2単位、合計4単位）、自然科学総合講座 I（半期2単位）、他

3・4年次 自然科学研究会 III・IV（生物学）（各半期2単位、合計4単位）、他＋卒業研究

⇒合計16単位以上

人文科学研究会、自然科学研究会履修の際の注意

履修を希望する学生は、Web履修申告システムによる履修申告手続のほか、初回授業に必ず出席をし、担当者の許可を受けてください。履修希望者が多すぎる場合は、選抜を行うこともあります。本ファイルの各研究会のページを必ず確認してください。

副専攻認定へのおおまかな流れ

〔入学時〕 本ファイルの内容をよく読み、関心のある人文科学研究会、自然科学研究会を見つける。

〔1・2年次〕 関心のある研究会のページに記載された「関連する科目」として履修をすすめる科目を参考にしながら、日吉で関連する科目を履修する。

〔2年次11月～12月〕 日吉で開かれる副専攻認定制度の全体説明会、各研究会の個別説明会に出席して、研究計画を立てる上での参考にしてください。

〔3・4年次〕 人文科学研究会ないし自然科学研究会を履修。卒業制作を提出。

現時点では副専攻認定を受ける決心がつかない人も、ここに書いてある条件を意識して授業を取っておけば、3年生や4年生になって決めることもできます。

<https://www.students.keio.ac.jp/hy/law/class/registration/minor.html> では卒業制作の一部を公開しています。法学部サイトの副専攻のページ (<http://www.law.keio.ac.jp/submajor/>) も見てください。

2024年度三田で予定されている研究会は、本ファイルの目次に記載のとおりです。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者： ^{ありみつ} 有光 ^{みちお} 道生
テーマ：アメリカ文化論
授業内容： 本研究会では、国籍、階級、人種、民族、ジェンダー、セクシャリティ、宗教、アビリティ／ディサビリティなどの交差性に注目しながら、米国の多様な文化を論じる知識と技術を身につけることが目標です。前期は、文献を輪読しアメリカ研究の方法論を理解することに努め、後期は、各自関心のあるテーマについてリサーチをした上で成果を口頭発表してもらいます。授業形式・内容については相談しながら適宜変更していきます。
事前の準備： アメリカ地域文化論を未履修の場合には、鈴木透『実験国家アメリカの履歴書（第2版）』（慶應義塾大学出版会、2016年）を事前に通読すること。
「関連する科目」として履修をすすめる科目： 副専攻の認定を目指さない学生、1年間のみの履修、他学部生も履修を歓迎します（ただし、半期だけの履修は要相談）。また、副専攻認定のためには、日吉設置のアメリカ研究に関連する「地域文化論 I～IV」、「人文科学特論」のうち8単位を履修した上で（これ以外の科目の認定に関しては個別に相談を受け付けます。）、三田設置の研究会を2年間履修し単位取得すること（卒業執筆を含む）が必要です。
その他： 質問・相談があれば michioari@keio.jp まで。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：^{お おくぼ のりひろ}大久保 教宏

テーマ：世界の宗教と社会

授業内容：

世界各地で現在起きている様々な問題や歴史上の出来事に宗教がどのような影響を及ぼしてきたかを探りながら、宗教と社会の関係について考察していきます。世界の多くの地域において、宗教の影響力は想像以上に大きく、宗教に関する知識を深めておくことは、将来海外で活躍しようとする諸君にとって、大いに意義のあることでしょう。

授業では、まず宗教に関する研究を行う際に必要な知識や方法を習得するための基本的文献や、世界各地の宗教問題を扱った研究書を講読します。その作業の中で、自分の研究テーマを絞り、研究発表を数回行って、2年間で修了論文としてまとめてもらいます。これまでの履修者は、震災と宗教、フェミニズムと宗教、日本人は無宗教か、道徳と宗教、フランスのライシテ、国家神道、現代アンデスの宗教、海外の新宗教などを研究テーマとして取り上げてきました。

必ずしも副専攻の認定を目指さなくてもかまいません。

事前の準備：

担当者がどのような研究をしているか知りたい場合は、次の3点を読んでみてください。

- 1) 大久保教宏 『プロテスタンティズムとメキシコ革命』 新教出版社、2005年
- 2) 大久保教宏他編 『ラテンアメリカ 出会いのかたち』 慶應義塾大学出版会、2010年
- 3) 大久保教宏他 『世俗化後のグローバル宗教事情』 岩波書店、2018年

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

副専攻としての認定を受けるためには、1～2年生のときに自分が扱う研究テーマに関連した科目を8単位分履修しておいてください。宗教に直接関連した科目は多くないので、各自の関心のある地域を扱った科目（地域文化論Ⅰ～Ⅳなど）を履修しておくとい良いでしょう。

その他：

大久保は三田で大学院社会学研究科の授業も担当しています。学部卒業後、社会学研究科に進学して宗教研究やラテンアメリカ研究を行うことに関心があるなら、ぜひ履修してください。

質問は okubons@a5.keio.jp まで。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者： おおで あつし
大出 敦

テーマ： 日仏交流

授業内容：

この研究会では、広く日仏交流をテーマにしようと思います。日仏交流は日本の江戸末期、フランスの第二帝政期から本格的に始まりますが、みなさんのなかには 19 世紀に印象派などを巻き込んで一大ブームとなったジャポニズムなどを思い浮かべるとと思います。研究会では、私の専門とするステファヌ・マラルメやポール・クロードルといったジャポニズムや実際に日本に來訪した詩人・文学者のテキストを扱って、日本がフランスの文化や文学にどう影響したかを考えていきたいと思っています。

研究会では、ポール・クロードル、ステファヌ・マラルメ、ミシェル・フーコー、ミシェル・ビュトールなどの日本論をテキストにして、読書会形式で批判的読解していくとともに、定期的に論文作成のための発想法、テーマの選定の仕方や絞り方、アウトラインの組み立て方、論文の書き方を実践していきます。この実践を基にみなさんには論文を作成してもらいます。

論文のテーマは、フランスに関連する文学、哲学・思想、芸術、文化など人文学の領域であれば、自由に設定して問題ありません。

事前の準備：

「私たちは、主観的観点からしか客観という理想を發展させられない」(マルクス・ガブリエル)ということをご心にかけて下さい。閃きや思いつきは論文の種ですので、大切に育ててあげて、客観的な成果としてアウトプットできるようにして下さい。事前に準備しなければならないものは、特にありませんが、時間のあるときに以下のような参考文献を読んでおいて下さい。

- ・大出 敦・直江健介『プレゼンテーション入門』、慶應義塾大学出版会、2020 年
- ・大出 敦『クリティカル・リーディング入門』、慶應義塾大学出版会、2015 年

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

日吉に設置されている「地域文化論 (フランス)」「文学」「人文科学特論」などの人文科学に関する科目を履修してあることが望ましいですが、特に制限はありません。疑問があったら以下のメールアドレスに連絡して下さい。

その他：

履修に関する質問等は以下のメールアドレスにして下さい。atsushiode@keio.jp

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者： ^{おおばや} 大隼 エヴァ
テーマ： アラブの声：メディアを通じて
授業内容： 「アラブ世界」は23の国々から構成されているが、しばしば一纏めにされてしまう。この授業では、日本語字幕付きのアラブの討論番組や映画などを通じて、アラブ世界への理解を深めていくことを目的とする。 アラブ諸国の多様性に着目し、その豊かな話題性を深く探求すると共に、学生自身の意見形成も目指す。春学期および秋学期には、様々なメディアジャンルを通じてアラブ世界に関する知識を広げ、議論を進めながら専門性を高めていく。
事前の準備： 必然的ではないが、以下の文献の閲覧を勧める。 Margaret K. Nydell. 2018. <i>Understanding Arabs, 6th Edition: A Contemporary Guide to Arab Society</i>. Intercultural Press. London. Jillian Schwedler. 2019. <i>Understanding the Contemporary Middle East</i>. edited by Deborah J. Gerner and Jillian Schwedler. Holmes & Meier Publication. Albert Hourani. 2013. <i>A History of the Arab Peoples</i>. Faber & Faber. Noha Mellor, Khalil Rinnawi, Nabil Dajani, and Muhammad I. Ayish. 2019. <i>Arab Media: Globalization and Emerging Media Industries</i>. Polity
「関連する科目」として履修をすすめる科目： 以下の科目をすすめるが、本授業の履修条件ではない。 人文科学特論（アラブ思考法）Ⅰ、Ⅱ 地域文化論（アラブ世界）Ⅰ、Ⅱ
その他： 推奨する科目を履修できない場合でも構いませんが、授業への積極的な参加と議論に積極的に貢献することが要求されます。無断欠席が3回以上になると成績に影響しますので、ご留意ください。所属する学部や学年は問いません。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：おおわだ としゆき大和田 俊之

テーマ：アメリカ文化研究

授業内容：

本研究会ではアメリカの音楽文化を中心に上げ、少人数の演習形式で論文などを購読する。R&B、ヒップホップ、ジャズ、ブロードウェイ・ミュージカル、カントリー、ロック、ブルースなどアメリカの音楽を歴史や社会との関わりにおいて考察し、音楽文化の様々な分析手法を学ぶ。音楽ファンだけでなく、文化研究や批評理論などに関心がある学生を歓迎する。(特定のジャンルが好きな学生は、別のジャンルにも知的な関心を持ってほしい。)

個々の研究テーマとしては、音楽とジェンダー／人種／階級、ファン・コミュニティの様相、テクノロジー／メディアの発展と音楽文化などがありうるだろう。また、日本のポピュラー音楽文化との関係も視野におきながら議論を進めたい。三年生は主として三田祭で配布する同人誌の編集作業に取り組み、四年生は卒業論文の執筆を目的とする。

事前の準備：

副専攻認定を希望しない学生の履修も認めるが、アメリカ史に関する基本的な知識を習得しておくこと。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

副専攻認定のためには日吉設置の「地域文化論(アメリカ)ⅠからⅣ」、「人文科学特論」のうち8単位を履修した上で、当研究会を二年継続して履修・単位取得することが必要。

その他：

研究会に関する質問などは、tohwada@gmail.com まで。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：奥田 暁代
おくだ あきよ

テーマ：アメリカの文化と社会

授業内容：

アメリカ研究(American Studies)の研究会です。おもに人種／エスニシティに関わる問題を取りあげています。履修者各自が決めたテーマで研究発表を行い、論文を執筆します(論文集を作成)。

授業では、文献を読みながら、おもに発表／ディスカッションを通じてアメリカについての知識を養います。2023年度は、2010年に*The Warmth of Other Suns: The Epic Story of American Great Migration*によって全米批評家協会賞を受賞したジャーナリストのイザベル・ウィルカーソン(Isabel Wilkerson)の2作目『カースト——アメリカに渦巻く不満の根源』(*Caste: The Origins of Our Discontents*, 2020年)を取りあげました。ウィルカーソンは黒人女性として初めてピューリッツァー賞のジャーナリズム部門を受賞しています。『カースト』を精読しながら、アメリカの階層的な社会構造、植民地時代から続く不平等、カーストと人種との関連などについて、歴史や文化の視点から考察しました。

2024年度は、ベストセラーとなった『孤独なボウリング——米国コミュニティの崩壊と再生』(*Bowling Alone: the Collapse and Revival of American Community*, 2000年)や『われらの子ども——米国における機会格差の拡大』(*Our Kids: The American Dream in Crisis*, 2015年)などで知られる政治学者ロバート・D・パットナム(Robert D. Putnam)の最新作『上昇(アップスウィング)——アメリカは再び(団結)できるのか』(*The Upswing: How America Came Together a Century Ago and How We Can Do It Again*, 2020年)を読みます。コミュニティの衰退に着目してきたパットナムが、『上昇』では現在の深刻化する経済格差や社会分断を、一世紀にわたる歴史に照らして説明しています。『上昇』を精読しながら、アメリカの歴史を振り返りつつ、現在のアメリカ社会の抱える課題、その解決策について考察します。

事前の準備：

日吉設置の「地域文化論(アメリカ)」を履修しておく、あるいはアメリカの文化や社会に関する本を読んでおくことが望ましいですが、必須ではありません。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

「地域文化論(アメリカ)」、「人文科学特論」(アメリカ文化関連)

その他：

法学部副専攻認定のためには、日吉設置の「地域文化論Ⅰ～Ⅳ」、「人文科学特論」のうち8単位を履修した上で、研究会を2年継続して履修してください。

問い合わせ先：aokuda@z2.keio.jp

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者： おりい 折井 よしみ 善果
テーマ：イベリア半島の文化と社会
授業内容： 本研究会はイベリア半島（スペイン・ポルトガル）の文化や社会について興味のある人を対象にしています。多民族・多言語で構成されるイベリア半島は、民族とは何か、言語とは何か、国家とは何か等について考える多様な視点を提供してくれます。本年度は昨年に引き続き、英国出身のジャーナリスト William Chislett 著 <i>Microhistoria de España: Contada por un británico</i> (2020) (イギリス人の語るスペインのミクロヒストリー) を丁寧に読み進め（英訳版での参加も可）、現在私たちが住む日本社会の諸問題との共通点や違いを見出していきたいと思います。課外活動として、セバンテス文化センターでの映画鑑賞等を行う予定です。 副専攻論文のテーマは、以下の通り多彩です：「Marca España: スペインのスポーツ外交」、「アントニ・ガウディとその建築」、「フランコ時代における検閲と芸術について」、「独立“するする詐欺”のカタルーニャ」、「バスクの特殊性とプライド：サッカーという視点から」「E C加盟前後のスペイン経済」等々。
事前の準備： 初回の授業で、おおよそ自分が興味を持っているテーマについてお聞きしますので、考えておいてください。一つに決められない場合は、いくつか提示してください。
「関連する科目」として履修をすすめる科目： 副専攻としての認定を希望している人は、なるべく1～2年生のときに、自分が扱うテーマに関連した科目（外国語科目は除く）を8単位分履修しておいてください。その科目の組み合わせは自由ですが、地域文化論Ⅰ～Ⅳ（イベリア半島）、地域文化論Ⅰ～Ⅳ（ラテンアメリカ）のいずれかの単位が少なくとも2単位含まれることが望ましいです。
その他： スペインへの留学を希望している方、留学が決定している方が、本研究会には多く集ってきました。半期のみ履修も受け付けています。スペインに関する情報交換の場となることを期待しています。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：片山^{かたやま} 杜秀^{もりひで}

テーマ：日本の思想と文化

授業内容：「日本の思想と文化」について学ぶ研究会です。みんなで学び、個々人でも学んでもらいます。みんなで学ぶというのは、履修者全員で文献を読むということです。「日本の思想と文化」を知るための基礎的文献を、その年の履修者の志向に配慮しながら、なるべく幅広く読んで、報告して貰い、疑問を出し合い、討論します。視聴覚資料の鑑賞も行います。共通文献としては、西田幾多郎、田辺元、三島由紀夫、岡倉天心、鈴木大拙、折口信夫、丸山眞男などを取り上げてきました。個々人で学ぶというのは、個人でテーマを持って個人研究してもらおうということです。研究の対象は幅広く許容します。これまでのメンバーの個別研究テーマは、三島由紀夫、大江健三郎、安部公房、沼正三、野田秀樹、土方巽、岡崎京子、岡本喜八、市川猿之助、尾崎豊、二・二六事件、戦争画、日蓮、歌舞伎の女形、YMO、禅、京都、ゴジラ、新宿、日本の野球などです。授業の形態は、輪読、視聴覚資料鑑賞、個別テーマの発表、見学、その他を組み合わせる予定です。普通のゼミのやり方だと思います。合宿も例年ですとどこかの季節に一回行っています。副専攻として履修する場合は、遅くとも3年生の秋学期のうちには個別の研究テーマを確定してもらい、4年生のときに論文かそれに相当する何らかを提出してもらいます。

事前の準備：履修を希望する方は初回の授業に必ず出席してください。その際、「履修希望の理由、自分の興味関心、何を研究してみたいか」を1000字程度にまとめて、初回授業前日まで moto-katayama@keio.jp まで送ってください。質問等あれば同じメールアドレスにください。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：特にありません。

その他：履修希望者数がゼミ形式というには多いとか、その他何らかの理由があれば、初回の授業で選考します。上記の作文が選考の主要な材料となるでしょう。副専攻の認定に必要な単位として何が認められるか認められないかについては個別に相談しましょう。副専攻の認定を求めない方の履修も可能です。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：許 ^{きよ} 光俊 ^{みつとし}
テーマ：小説を読む、書く
授業内容：毎回さまざまな小説を読み、みな（少人数）で論じます。この数年で取り上げたのは、三島由紀夫、ポー、芥川龍之介、菊池寛、カフカ、カミュ、大江健三郎、三木卓、川端康成、深沢七郎、西村賢太などなど。全般的な傾向として、当たり前の有名作や名作ではなく、変な作品、奇抜な作品を選びます。たとえば、三島が匿名で同性愛雑誌に発表した『愛の処刑』では、生徒が先生に切腹を強要したあげく、愛を告白します。また、大江や深沢の場合は右翼を怒らせてお蔵入りした作品など。川端『雪国』は、子供にはわからないように書いているけれど、露骨なセックスの話だと気づけば、まじめな顔をしてこんなものを書いていたのかと驚く小説です。 学期末の課題は、短編小説を書くこと。毎回テーマが決まっています。これまでのところ、名作の続編、天皇小説、ホラー小説、不倫小説などなどです。みなさん、なかなかレベルの高いものを書いていて感心させられます。やればできます。
事前の準備： 毎回課題を読んできてください。
「関連する科目」として履修をすすめる科目： 文学に関する授業。
その他：副専攻認定を積極的に受けてください。作品論、作家論を書いてもよし、2年間で書いた短編小説4つを磨いて、短編集にしてもよし。相談してください。 受講したい人は、あらかじめ知らせてください。warumono@keio.jp あまり受講希望者が多いときは選抜するかもしれません。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：くましろ としゆき
熊代 敏行

テーマ：ことばの分析－発見の喜びを求めて

授業内容：

本研究会では、実際のデータを集め、ことばを分析することに取り組んでもらいます。対象の言語は、日本語でも英語でも、その他の自分の興味のあるどんな言語でもかまいません。その中でも、日本語のネイティブ・スピーカーとして、普段使用している日本語の言い回しを分析し、いかに複雑極まりない使い分けを難なく使いこなしているかということに気づいてもらうのがよいかと思います。

データの収集は、アンケート調査、各種コーパスの利用など、生のデータを集めるところから始めます。最初は五里霧中の状態でも、全く気づかなかった規則性が突然見つかるという「発見の喜び」を体験してもらいたいと思います。

副専攻科目として履修を希望する学生も、通常の授業として履修する学生も、他学部の学生も等しく歓迎します。授業は、気になることばについて、調べ、発表し、フィードバックをもらうという流れになります。そして、可能であれば、それを論文という形でまとめることを目指してください。研究は、個人研究でも、共同研究でもかまいません。先輩が始めた研究を後輩が継続するという形態も歓迎です。

受講希望者は、初回の授業に参加するか、もしくはその前に下の担当者メール・アドレスに受講を希望する旨を連絡して下さい。

参考までに、過去の学生による研究テーマをいくつか挙げます。

- ・「自撮り界限」、「片目界限」－世にも不思議な界限の世界」
- ・「未来を、試着しよう。」－商品広告における言語学的逸脱性の魅力」
- ・「コーヒーニューニュー」、「透明なハートで生きたい」－購買意識をそそる言葉の仕組みとは？」
- ・「でめたしでめたし」、「かあちゃん、ふともも！」－クレヨンしんちゃんのギャグの深淵を探る」
- ・「じゃけん」と言えない広島県民！エセ方言を使ってしまう心理とは？」
- ・「十年後、「ワンチャン」残り、「ぴえん」は消える？若者言葉の流行・定着・消滅の研究」
- ・「櫻井&相葉、結婚」？新聞記事における曖昧性回避法とは？」

事前の準備：

副専攻として本研究会を受講する学生は、日吉で言語学Ⅰ～Ⅳや人文科学特論などの言語学関連の授業を履修していることが求められます。

何より、気になる言い回しを普段から探しておきましょう。「カモシカのような脚」は果たしておかしいのか、まだ終了していないのに「アプリを終了しています」というのはどういうことか、「いつ選挙が行われるのかどうかわからない」はどこがおかしいのか、「エリザベス女王」はなぜ「じょうおう」ではなく、「じょうおう」と発音されるのかなどなど、日常の日本語に注意を向けておいてください。以下の本は、そんな気になる言い回しを解説した本です。

北原保雄 編著 (2004-2011),『問題な日本語』,『続弾！問題な日本語』,『問題な日本語 その3』,『問題な日本語 その4』,大修館書店。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

法学部設置の言語学Ⅰ～Ⅳ、人文科学特論(言語学をテーマとするもの)。

その他：

履修に関する質問は、メール(tkumashi+tu4@keio.jp)で随時受け付けます。お気軽にどうぞ。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：^{くまの や ようこ}熊野谷 葉子

テーマ：ロシアの文化と社会

授業内容：

この研究会では、ロシアの文化と社会に関して互いに報告し、議論を通じてロシア理解を深めます。とは言え、現在ロシア研究には様々な障壁があり、また旧ソ連諸国をはじめとするロシアに関わりの深い地域の研究、それらの立場から見たロシア研究も必要であることは明らかなです。ゆえに、この研究会で扱うテーマは、ロシアだけでなく広く旧ソ連や東欧諸国にもおよびます。

基本的に参加者は自分のテーマを決めて半年または1年かけて研究し、論文を作成するとともに、互いのテーマに関心を持って共に学びます。各人が毎回進捗を報告し、参加者が質問をしたり新しい情報をもたらしたりして着実に進めます。論文の書き方も学びましょう。

2022年度は、19世紀ロシア思想、ロシア地方都市の現状と今後、エストニアの外交と安全保障、ウクライナ映画などについて論文が作成され、2023年度からはカザフスタンの歴史と政治についての研究が進行中です。完成した論文は研究会のHPで公開されます。(検索：慶應義塾大学法学部のロシア語>人文科学研究会ロシア) 自分の興味のあるテーマについて、どこまでも深めていけるのがこの研究会です。

副専攻の認定を目指す人は、2年間履修して研究を続け、卒業論文に匹敵する論文を作成します。ぜひ講師に相談してください。

事前の準備：

皆で勉強したいテーマ、自分が論文にしたいテーマについて、初回の授業で話せるよう考えておくこと。副専攻の認定を目指す人は、これまでに単位を取得した科目を確認し、卒業論文に相当する論文を提出できるよう、論文のテーマを考えておきましょう。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

地域文化論ロシア I, II, III, IV

その他：

ロシア語の知識はなくても構いません。ただいろいろな外国語ができればそれだけアクセスできる資料や文献が広がります。せっかくの研究会ですから、各人が持っている能力や知識を互いに利用し、外国語だけでなく音楽でも美術でも歴史でも政治でも法律でも、情報を共有し共に考えましょう。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：三瓶 愼一 さんべ しんいち

テーマ：現代ドイツ研究

授業内容：

現代ドイツの政治・社会・言語・文化に関する種々の問題を扱います。参加者の関心に応じて、自力で資料を集め、Referat にまとめて発表し、全員で議論を重ねることで、最終的に1つの論文に仕上げるのが目標です。

これまで扱ってきたテーマとしては、いくつか例を挙げると、戦後ドイツの歩み、東西ドイツ分断の経緯、東西ドイツ国境事情、東ドイツの政治文化、ベルリンの壁の建設と崩壊、各政党の成立と政策、社会民主党の歴史、ヴィリー・ブラント、兵役義務、ドイツ語の人名、ドイツと日本の言語政策、戦後ドイツの知識人、政治教育の現状、68年世代と緑の党の誕生、1990年代のドイツ、ドイツの脱原発政策、憲法愛国主義、ヤスパースによる「罪」の分類、東西ドイツ統一の背景、ホロコーストと過去の克服、ドイツの安全保障政策、日独の駐留軍地位協定、想起の文化、ドイツ連邦共和国基本法の特質などでした。この他のテーマももちろん歓迎です。

なおドイツ連邦共和国に関する問題を中心としますが、参加者の希望によっては、ドイツ語圏の他の国々についてのテーマを扱うことも妨げません。

事前に準備しておくこと：

副専攻認定を希望する場合は、要項の当該部分を熟読しておいてください。**個別説明会は12月12日(火)12時20分～12時50分にJ447教室で行います。**なおドイツ研究には、日本語文献のみならず、ドイツ語の文献に当たることが重要です。そのため、この研究会ではドイツ語ができる人はドイツ語の文献の参照、また新聞、雑誌、インターネット、ラジオニュースなどによって、最新情報の収集をすることができます。従って、ドイツ語ができることを必須とはしないものの、**現代ドイツに関心があり、なおかつドイツ語学習経験があって、ドイツ語を学ぶことが好きであるという諸君の参加を歓迎**します。しかし所属学部等は問いません。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

地域文化論 I～IV と、その他、ドイツの政治・社会・言語・文化等に関わる科目

その他：

参加申し込み、問い合わせは、deutschlandseminar@sambe.jp に直接メールを送って下さい。随時受け付けています。返答に数日かかる場合もありますが、必ず返信するので了解してください。送信の際、件名は「人文研究会参加希望」「人文研究会問い合わせ」のように。参加申し込みをした諸君には、エントリーシート書式、受講前の課題図書を数点挙げたリストを送ります。

なお、担当者は2025年3月末に定年退職しますので、卒業制作・卒業論文を予定している新3年生は2年目には別の研究会に移って指導を受けることになります。あらかじめ申し添えておきます。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：常山 つねやま 菜穂子 なほこ
テーマ：パフォーミング・アーツ研究 ―アメリカ文化を中心に―
授業内容： 本研究会は2007年に発足したのち教員の留学等による休会を挟んで、2024年度から再開します。 植民地時代から21世紀までのアメリカの社会と文化をパフォーミング・アーツの視点から考察します。戯曲に限らずダンスやミュージカル、映画、ディズニーなども射程に、これらの表象芸術が、いかに同時代の政治経済、国家国民、思想宗教の影響を意識的／無意識的に受けながら形成されているかを検討し、作品に反映された「アメリカ」の姿を浮き彫りにしていきます。その際には多様なアプローチ方法があります。たとえば、人種、ジェンダー・セクシュアリティ、階級、地域性、外国との比較や日本での受容の視点から考えたり、さらには、スポーツやテーマパーク、裁判などを広義のパフォーマンスとしてとらえ研究対象にすることもできるでしょう。ゼミ生が行う個々の研究を通して、わたし自身もさまざまなパフォーマンス・シーンについて一緒に学びたいと思っています。 当研究会では、「アメリカの文化と社会」の分野で副専攻を認定します。さらに、アメリカにおけるパフォーミング・アーツ研究の基礎を踏まえた上で、演劇学や映画、テレビやお笑い、ほかの国のパフォーマンス（ウィーンやフレンチ・ミュージカル、四季や東宝・宝塚、ハリウッド以外の映画など）に関する研究のようなアメリカに限定しないテーマに関しては、「芸術の批評と創作」の分野で副専攻を認定します。 各回の授業では、基本的な研究方法や背景を学ぶために講義と文献講読を行うと共に、履修者が各自のテーマを設定し、研究成果の口頭発表と論文の作成をします。
事前の準備： 授業で扱う文献などは履修者の希望を広く取り入れたいので、履修希望者は初回授業までに、自身の関心事や本研究会において何を勉強したいか考えておいて下さい。
「関連する科目」として履修をすすめる科目： 地域文化論（アメリカ）Ⅰ～Ⅳ、人文科学特論（アメリカ） 自身の関心事・テーマに沿った内容の「文学」「歴史」「音楽」などの科目
その他： ・副専攻の認定を受けない学生、1年間のみの履修、他学部所属者、留学前後も歓迎します。 ・質問・相談は常山 tsune@keio.jp まで！

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：永嶋 ながしま ゆう 友

テーマ：イギリス文化・社会とメディア

授業内容：

この研究会では、イギリス文化・社会とメディアについて広く学んでいます。イギリス以外の国々について扱うこともあります。また、メディアを広い意味で捉え、媒介性を有するものすべて、メディアに関連する事柄すべてを研究対象として認めています。つまり、ネット、テレビ、ラジオ、映画、新聞、雑誌、AI・ロボット・人間・動物、アニメ・漫画、文学・文化、舞台芸術、ファッション、放送、プロパガンダ、言語、出版・広告、教育、ジャーナリズム、音楽、VR・AR などさまざまです。多分野を横断する研究をぜひ目指してください。活気あふれる研究会を一緒に作っていきましょう。

研究会の授業・活動内容は、参加者と相談しながら柔軟に決めています。基本は、日本語・英語文献の輪読です。また、それとは別に、各々好きなテーマで個別の研究・制作を進めてもらい、できれば3年生の後期までに、遅くとも4年生の前期までに卒業論文・制作のテーマを確定し、4年生の1月に最終成果を提出していただく予定です。各々の論文・制作のプレゼンテーションやワークショップにも随時取り組んでもらいます。卒業論文・制作の完成後は、ゼミウェブサイトでの公開（要旨のみ、もしくは、全文）を予定しています。また、リクエストがあれば、学外活動、夏季・春季休暇中の活動等も検討しています。副専攻認定を目指さない学生や他学部生も歓迎です。ゼミ見学も随時受け付けています。2023年度に扱った文献の例（慶應認証あり）：<https://keio.box.com/s/ba7t6u72vxrk2aond1kmpvwm75nxecwn>
ゼミウェブサイト：<https://nagashimaseminar.wixsite.com/home/>

事前の準備：

特にありません。飽くなき探究心・情熱を持って研究会に臨んでください。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

地域文化論、人文科学特論、文学などをおすすめします。「イギリスの文化と社会」や「芸術の批評と創作」での副専攻が望ましいです。

その他：

お問い合わせはこちらまで：yu.nagashima★keio.jp（★を@に変換）。

2023年12月20日（水）12:30~12:55 に日吉 J21 教室でイギリス部門の研究会の説明会を開催します（横山千晶先生と星野真志先生と合同）。リアルタイムで Zoom 中継もします：

<https://keio-univ.zoom.us/j/84567185921?pwd=QWRXRVTrRnVGQ0lBT2Ewd2o1NE80UT09>

（Meeting ID: 845 6718 5921 Passcode: 912322）。ぜひご参加下さい！

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者： ^{ならはし} 檜橋・アンリ，ナタリー
テーマ：Société française
<u>授業内容：</u> Dans ce séminaire, nous étudions divers aspects de la société française, d'une part par l'étude d'un thème commun à partir de documents, d'autre part à travers les thèmes de recherche de chacun, choisis selon les intérêts (exemples de thèmes étudiés : la laïcité, l'évolution des valeurs, la parité en politique, le mariage pour tous, immigration et logement). Les thèmes de recherche individuelle sont discutés en groupe afin d'en dégager la problématique et définir un plan de recherche. Les avancées de la recherche sont ensuite régulièrement exposées et discutées, le travail doit finalement mener à la rédaction d'un rapport. Les buts du séminaire sont l'acquisition de connaissances sur la société française, par les discussions la pratique de l'échange d'idées, et, les sessions se déroulant en français, de permettre un approfondissement des compétences en langue française.
<u>事前の準備：</u> La langue du séminaire est le français, il est donc nécessaire d'avoir un niveau satisfaisant de compréhension et expression orales. De même, un bon niveau de compréhension écrite est demandé pour avoir accès aux documents en français.
<u>「関連する科目」として履修をすすめる科目：</u> Tous les cours ayant la société française ou un de ses aspects pour sujet, ou en traitant, sont considérés en rapport avec le séminaire.
<u>その他：</u> 質問、相談は nhenry@keio.jp までどうぞ。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者： はまだ かずのり 浜田 和範
テーマ： 世界の文学を読む
授業内容： いわゆる「欧米」として慣例的に認識される地域には、アジア、オセアニア、アフリカ、さらにはラテンアメリカ、果ては東欧と呼ばれる地域が隣接しています。この研究会は、そんな場所で書かれてきた文学作品を吟味し、彼ら／彼女らの声が私たちに届けるものを受け取り、それを論文という形でまた新たな読者に受け渡していく試みです。 春学期は「遭遇」encounter をテーマに、異民族間の接触を取り扱った 2 篇の小説、南アフリカのノーベル文学賞作家 J.M.クッツェーの『夷狄を待ちながら』(1980)、アルゼンチンの作家フアン・ホセ・サエールの『孤児』(1983) を読みながら、同時に関連文献を参照しつつ作品の論じ方を身につけます。並行して、自分が言葉を尽くしてみたいと思える対象を定めます。秋学期ではその対象作品や関連文献を読みながら論文を書き進め、討議を経て磨き上げていきます。
事前の準備： あなたが立とうとする地平はあまりに広く、ともすれば途方に暮れてしまいます。とはいえやはりその景色の中で、論文の形で言葉にしてみたい対象(テーマ、作家、地域、個々の作品など)を可能な限り定めつつ、初回授業に臨んでももらいたいと思います。
「関連する科目」として履修をすすめる科目： 副専攻認定を目指す人は、日吉で開講される「文学」「地域文化論」「歴史」「芸術」「人文科学特論」など自分の興味ある地域・分野に関連する科目を履修しておいてください。
その他： 担当教員はラテンアメリカ文学を専門としていますが、世界の文学に関しては知らないことだらけです。皆さんが培ってきた個々の知識を、積極的に供してほしいと思います。授業では、基本的に日本語訳のある作品・関連文献を取り扱います。場合によっては英語で書かれたもの(原文・翻訳問わず)を扱うこともあるかもしれません。1 年間のみの履修、他学部生の履修も歓迎します。 個別に質問のある場合は、kazhamada[at]keio.jp ([at]を@に替えてください) までご連絡ください。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：星野 ほしの 真志 まさし
テーマ：近現代イギリスの文化と社会
授業内容： 20 世紀から現在までのイギリスの文化と社会について学びます。2024 年度が初開講なので、具体的な内容は受講生の関心を聞いて決定します。現時点では以下のような進め方を考えています。まず、イギリス文化史の教科書『愛と戦いのイギリス文化史』（慶應義塾大学出版会、上巻は 1900-1950 年、下巻は 1951-2010 年を扱っている）のなかから、各受講生の選んだ章を毎週読み、意見を交換します。そうして各受講生の関心を明確化したうえで、その主題についての知見を深めるために、各受講生の関心に応じた資料（小説、詩、映画、ルポルタージュ、音楽など）を教員と受講生で相談して選び、それについて全員で議論します。そのあとで、各受講生に自身の関心のあるテーマについて調査し発表してもらいます。
事前の準備： できれば事前に『愛と戦いのイギリス文化史』上下巻の目次を眺めて、興味を引かれる章があるか考えてみてください。
「関連する科目」として履修をすすめる科目： 「地域文化論」、「文学」、「人文科学特論」など、イギリスに関する科目はもちろんのこと、イギリスと関係の深い地域（アメリカ、ヨーロッパなど）、あるいは日本の文化・文学についての科目も関連科目として考えられます。副専攻認定のためには、これらの科目から 8 単位以上を履修する必要があります。副専攻認定を目指さない学生や他学部の学生の参加も歓迎します。
その他： 教員はこれまで 20 世紀イギリスの文学と映画について研究してきました。音楽にも関心があるので、イギリス音楽に関心がある学生も歓迎します。具体的な質問は masashi.hoshino@keio.jp までメールで問い合わせてください。12 月 20 日（水）12:30~12:55 に日吉 J21 教室でイギリス文化専攻の個別説明会を開催します（横山千晶先生・永嶋友先生と合同）。リアルタイムで Zoom 中継もします： https://keio-univ.zoom.us/j/84567185921?pwd=QWRXSVTrRnVGQ0lBT2Ewd2o1NE80UT09 (Meeting ID: 845 6718 5921 Passcode: 912322)。ぜひご参加下さい。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：本谷 ほんや 裕子 ゆうこ

テーマ：ラテンアメリカの文化と社会

授業内容：

『日本の抱える諸問題を、ラテンアメリカ的発想(スペイン語圏だけでなくポルトガル語圏のブラジル・フランス語圏のカリブ海の国々も含む)の事例から解決してみよう!』これが私たち本谷研究会の掲げるテーマです。みなさんはまず、ご自身の関心に沿った研究テーマを考えてみてくださいね。南北アメリカ大陸、スペイン、そしてアフリカ大陸をも網羅する大スペイン語圏、そこに加わるポルトガル圏、研究地域の広さはピカイチです。みなさんの、ユニークかつオリジナリティあふれる柔軟な発想に更なる磨きをかけてみませんか。

2022年(23年は休講でした)は「ラテンアメリカの社会経済政策」というテーマのもと、ブラジル・アルゼンチン・コスタリカ・ペルーの事例を学び、日本の今後を考えるうえで重要な知見を得ることができました。なお、当研究会ではフィールドワークと称して、都内・都下のラテンアメリカコミュニティやレストランを散策しに行く課外活動も積極的におこないます。2022年には、第二回 OGOB 会を三田キャンパスでおこないました。先輩・後輩の絆の深さも当研究会の魅力のひとつです! 今後も12月に開催していく予定です。

事前の準備：

副専攻としての認定を受ける場合には、なるべく1～2年生のときに、自分が扱うテーマに関連科目(外国語科目は除く)を8単位分履修しておいてください。地域文化論I、II(イベリア半島)、地域文化論I～IV(ラテンアメリカ)のいずれかの単位が少なくとも2単位含まれることが望ましいです。先輩方には、1・2年次にスペイン語を選択していなかった、スペイン語圏に関して学ぶ地域文化論の授業を履修していなかった人もいました。その点に関しては随時対応していきます。第一回授業の際、ご自身の関心を1200字程度にまとめたものを提出してください。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

地域文化論I、II(イベリア半島)、地域文化論I～IV(ラテンアメリカ)のいずれかの単位が少なくとも2単位含まれることが望ましいのですが、日吉で取得した科目を研究会での研究テーマと結びつけて考えることも可能です。

その他：

質問のある人はいつでもこちらへどうぞ → yhonya@keio.jp

久々の研究会活動なので、すこし緊張気味ですが、

みなさんとお目にかかれることを楽しみにしています。Te espero con los brazos abiertos.

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：やすだ じゅん
安田 淳

テーマ：中国及び東アジアの安全保障

授業内容：安全保障は、人文科学を含む多領域に及ぶ複雑かつ興味深い問題です。この研究会は、少人数のゼミ形式で、主として中国や東アジアの安全保障を学び、この地域の安全保障環境についての問題意識を高め理解を深めることを目的とします。また諸君が自由で大胆に発想し論証する力を養います。取り上げる題材にはこの地域の軍事はもちろんのこと、領土、エネルギー、環境、交通、歴史、宗教、文化、教育、外交関係等があり、広く履修者諸君の要望を汲み上げます。

春学期には、基本的な知識を習得・整理するための講義や文献講読を行います。秋学期には、共同研究発表や卒業論文作成に向けた中間報告発表・討論を行います。その他に、夏合宿(9月)と冬合宿(12月)を行い、文献講読や研究発表討議、パソコンを用いたシミュレーション研究等も実施する予定です。また例年、安全保障関係者によるブリーフィングや関連施設の見学・研修等も実施しています。

事前の準備：まず、中国や東アジアに対する興味・関心や問題意識を持つことが大前提です。

また、この研究会活動をより効果的、効率的に進めるため、履修希望者には、初回ゼミ授業時に指示された一定期間内(約1か月)に、レポートやサブノートの提出を課すことがあります。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：地域文化論(中国・東アジア)、人文科学特論(中国・東アジア)をはじめとして、日吉、三田を問わず中国や東アジアに関連する科目、国際政治や安全保障に関連する科目の履修を広く推奨します。

副専攻認定のために必要な「関連する科目」としては、この研究会で学び作成した卒業制作(論文等)と、自分が研究会以外に(とくに日吉で)履修した科目とがどのように関連するかを自ら考え説明できれば、広く認定します。

その他：新3、4年生いずれも履修することができます。ゼミ授業は3、4年生合同の週1回です。

履修者には卒業制作を課し、卒業時に副専攻認定証が授与されることを目指してもらいます。履修希望者は、前向きかつ積極的に研究会活動に臨んでください。

不明の点等はEメール(jyasuda@keio.jp)でいつでも遠慮なく質問・相談してください。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者： よこやま 横山 ちあき 千晶

テーマ： 短編文学作品からイギリスの今を知る

授業内容：2020年に入って、世界は混迷を極めています。新型コロナウイルスのみならず、ロシアのウクライナ侵攻や、アフリカ諸国の貧困と政治的混乱、イスラエルとハマスの戦いは、国というボーダーをまたいで人々に影響を与え、世界を新たな脅威と戦う大きな共同体のみならず、対立の現場に変えました。この現状の中で、多くの国が抱える問題と分断の根は何なのかが議論され、今まで等閑視されてきた歴史的事実や、民族、人種、年齢、移民、ジェンダーなどのさまざまな観点の中で無視されてきた声なき人々に関心が向けられるようになりました。

歴史の大きな流れは、一人ひとりの小さな個人が作り出すものです。その個人の物語は、文学や芸術的な表現を使って表すことが可能です。この授業は、文学作品を通して大きな歴史の中のそういった小さな個人の声を拾い上げることをめざします。

授業は、ごく最近の短編小説を読書会形式で読み解きながら、その裏に潜む社会問題や歴史の流れを探っていく方式を取ります。読むことで文学が伝えるメッセージを受けとめた後は、創作活動をししながら、小さな個人に寄り添う経験もしてみましょ。

授業で扱う作品はごく最近発表された英語による短編小説です。なるべくたくさんの作品に触れる予定なので、英語で作品を読むことに抵抗感のない方々に履修していただきたいと思います。

事前の準備：1～2年生の間にイギリス地域文化論だけではなく、ほかの地域の文化論などで、広く社会的な課題について学んでくださることを望みます。また、自分が慣れ親しんでいる文学や音楽、映画などにどのような社会的な視点が反映されているのかもあらためて見つめなおしてみてください。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：副専攻としての認定を望む場合は、「地域文化論」や「人文科学特論」、その他、論文や創作に向けてご自分の興味のある科目を積極的にとっていただきたいと思います。

その他：授業は対面で行います。なお、授業に関して質問や問い合わせがある場合は chacky★keio.jp (★を@に変換) まで連絡してください。なお、詳しいことは以下のイギリス文化専攻の合同説明会でもご紹介しますので、ぜひともご参加ください。(永嶋友先生、星野真志先生の研究会との合同説明会となります。)

12/20 (水) 12:30-12:55 J21 番教室

ZOOMでも参加できます。以下のリンクからお入りください。

<https://keio-univ.zoom.us/j/84567185921?pwd=QWRXVTcrRnVGQ01BT2Ewd2o1NE80UT09>

Meeting ID: 845 6718 5921 Passcode: 912322

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：林 りん しゅうこう 秀 光

テーマ：人文・社会科学と自然科学の架け橋——環境史を学ぶ

授業内容：

歴史研究は人間同士にまつわるさまざまな関係を描いてきたが、テクノロジーの進歩により、今や人間とAIの関係も取り沙汰され、それを解釈し理解する新しい学問の登場が待たれている。そうした大きな時代の流れの中で、いま一度、人類に生存と文明を育む環境を提供してくれた自然との関係を捉えてみる必要性がますます重要になってきたといえよう。

当人文科学研究会では、文明の誕生と環境、国際社会におけるパワー・バランスの不均衡と環境、災害や疫病、資源開発、環境の変化と保護に関する自然と人間社会の葛藤について、環境史の分野横断的なアプローチを通して学び、現代に生きる者としての理解と見識を得ることが目標である。また、中国をはじめ東アジアにおける環境史研究の動向を把握し、問題発見と同時に従来の歴史研究に「人間と自然との相互関係」を捉える環境史のアプローチを取り組み、新たな分野の開拓や「知」の創造を期待したい。この研究会は受講者がそれぞれの専門である法律学や政治学の知識を生かして貢献し、互いに刺激し合うことのできる場となることを願っている。

環境史研究の代表的な著作や論文を中心に輪読し、発表担当者を決め討論する形式をとる。関連文献は日本語訳がない場合、英語または中国語を利用する。合宿の課題として、中国の政治や社会に関連する書物（例：エズラ・F・ヴォーゲル著『現代中国の父——鄧小平』）を読む。

事前の準備：

入ゼミの選考は行わないが、入ゼミを希望する場合、林秀光までご一報いただくとありがたい。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

特に定めない。環境史研究は分野横断的な学問なので、ご興味のある授業を履修して卒論作成に繋げることができればよいと思う。

その他：

通年の履修が望ましいが、なにか特別な事由があればご相談ください。

ご不明な点があれば、担当教員の下記 email までご連絡ください。

xlin@z8.keio.jp

法学部副専攻認定制度
自然科学研究会
(3・4年生)

担当者：おの ひろたけ
小野 裕剛

テーマ：生命科学にかかわる諸問題

授業内容：

皆さんの主専攻は法律学や政治学ですが、ヒトの生命・特に遺伝子に関連した分野を扱うことは少なくないでしょう。このクラスではその背景を掘り下げたいと希望する学生を対象とし、資料(英文原著論文など)の読解を通じて、背景となる生物学的知識を体系化する能力を養います。

例年、この科目による副専攻認定には原則として2年間の履修を求めています(独自基準)。1年目に基礎知識を養い、2年目には複数の原著論文を要約して、総説としてまとめる作業を行います。単年度の履修を認めることもあります。よほどの場合を除き副専攻認定は難しいと考えてください(難しい主たる原因は学生の皆さんの生物学関連習熟度未達のため)。

授業時間内はその週に行った学習・研究の成果を報告し、議論と質疑応答をおこなう時間となります。資料・文献を読み、情報をまとめる作業は自宅などで行っていただきますので、十分な時間がとれるようにしてください。

最近取り上げた内容(例)は次のようなものです。

1. がんの免疫治療
2. ゲノム編集の仕組みと展望
3. 筋肉増強の分子・細胞メカニズム

事前の準備：

高校の「生物基礎」の内容は完全に理解している前提でスタートします。法学部の学生さんでは履修した人は少ないかもしれませんが、高校「生物」の内容にも学習参考書などを利用して目を通しておいください。大学教養レベルの教科書を入門に使用しますので、レベルを確認しておいてください(『キャンベル生物学』や『アメリカ版大学生物学の教科書』など、図書館にあるものから探してください)。初年度は基礎固めをしたうえで、山中 iPS 細胞論文を読みながら、研究技法や論理構成を学びます。二年目はヒトを巡る遺伝学・分子生物学関連の分野からテーマを選んでいただきます。

西川伸一(監修)『山中 iPS 細胞・ノーベル賞受賞論文を読もう』一灯社(2012)

渡辺公綱(他)『英語論文セミナー 21 世紀の分子生物学』講談社(2013)

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

生物学(実験を含む)Ⅰ・Ⅱ および 自然科学研究会Ⅰ・Ⅱ、その他自然科学系の実験科目・特論・教養研究センター設置科目など。担当者は問いませんがなるべく遺伝子関連の内容が多いものを勧めます。

その他：

基本的に対面で授業を行います。状況によっては zoom を用いたリアルタイムオンラインとなる可能性があります。対面の場合は、資料や設備の関係から日吉の教室を使用する予定です。副専攻認定レベルの指導を行うため、希望者多数の場合は準備状況(生物学の基礎知識)や受講動機を聞いて選抜することがあります。また、事前相談無く履修登録した場合は単位を認めません。

事前相談(個別説明会)はなるべく対面で、希望者(個人またはグループ)とメールで日時を打ち合わせた後に行います。まずは ono@keio.jp までメールで問い合わせてください(できるだけ義塾から配布されたアドレスを使用のこと。フリーメールからの問い合わせには返信しないことがあります)。

法学部副専攻認定制度
自然科学研究会
(3・4年生)

担当者： こばやし ひろみち 小林 宏充
テーマ： 流れの物理
授業内容： 流れの研究や勉強を実施する少人数のゼミ形式の授業です。空気や水などの流れに関連する現象を物理学の観点から解明することを通して、問いの設定から解決に至る自然科学の実証プロセス（調査方法・数理科学的な論理的思考法・論文執筆や発表の技法）を学びます。野球ボールの変化、洗面台の水抜きといった身近な流れ現象から、雲の形成、大気、海洋、温暖化などの気象現象まで、流れに関連していれば研究テーマは問いません。 春学期は、教科書や文献を講読することで、研究対象に関する基礎的な知識を習得・整理し、報告・討論を行うことで、それらの知見を共有します。秋学期は本格的な研究を実施し、その結果を報告・討論して、各自で最終的にレポート（論文）を提出します。履修者による共著論文の作成が目標になります。
事前の準備： 「自然科学」副専攻として認定されることを希望する場合には、この自然科学研究会 III・IV（同一担当者の2クラス）4単位に加えて、日吉設置の実験科目（半期2クラス）6単位と、その他の自然科学科目を合計16単位以上履修する必要があります。また、本研究会で研究活動を行い、研究レポート（論文）を執筆する必要があります。 副専攻の認定を求めない場合でも、自然科学研究会 III・IV は3、4年生対象の科目であり、履修に際して自然科学科目8単位を取得していることを原則とします。 初回の授業までに研究したいテーマ（現象）について、いくつか候補を考えておいてください。
「関連する科目」として履修をすすめる科目： 小林が担当する物理学 I・II（実験を含む）を履修していることが望ましいですが、必須ではありません。物理学や地学、数学系、情報系の科目の履修を広く推奨します。
その他： ・実験・観測を行う予定があることや資料・設備の関係から、日吉キャンパスで開講します。 ・個別説明会は来往舎の面談スペースで行います。希望者（個人またはグループ）はメールで hkobayas@keio.jp に日時を相談ください。 ・個別説明会の参加は履修の必須要件ではありませんが、希望者多数の場合は選抜があります。 ・副専攻の認定を求めない方の履修も可能です。